

# グローバルISPから眺める 地域ネットワーク問題

---

JANOG12パネルディスカッション

前村 昌紀 フランステレコム

[maem@opentransit.net](mailto:maem@opentransit.net)

# ピアリング

- 再確認: 相互の顧客のトラフィックを交換する
- 再確認: 相互にメリットがあって成り立つ
  - ちなみに弊社のピアリングポリシー
    - » [http://vision.opentransit.net/docs/peering\\_policy/](http://vision.opentransit.net/docs/peering_policy/)
- 限定地域の小規模ISP(顧客数少)と広域大規模ISP(顧客数多)
  - 一般的にはメリットが釣り合わない
  - 広域大規模ISPでは顧客経路も「売り物」である
    - ピアリングトラフィックをえり分ける、とは？
  - 提供経路を地域限定すると可能性が出てくる

# 地域IXへの参加

- FTのアジア展開(2001--)で考えると、
  - JPIXはグローバルISPも参加していて比較的容易に決まった。
    - グローバルワンから引き継いだルータもあったし
  - HKIXは、多少時間が掛かった
    - マルチラテラルという点が物議を醸した。
  - シンガポール: やっとコロケに進出
    - なかなかビジネスケースが受け入れられなかった
- では、なぜ地域IXに参加するのか。メリットは？
  - 少なくとも国内の場合、自分の顧客もその地域に存在する

# 地域色アドレス＋地域内トラフィック流通 ＝地域バックボーンISP

---

- 確かに、商用ISP勃興直前には、地域ネットワークが花盛りだった
  - －しかし、商用ISP以後は数少なくなった
  - －まるで、NSFnet->NAP体制移行を見るよう
- ISP運営スキルの蓄積もできてきたので、そろそろ「地域疎通性」を売りにする地域バックボーンISPが出てきてよいのでは？